



射水市立東明小学校 学校だより

東明っ子

第15号

令和3年12月1日

## 小学校教育課程研究集会



11月9日(火)、11月10日(水)、富山県教育委員会及び富山県小学校教育研究会が主催する小学校教育課程研究集会が行われました。この研究集会は、小学校教育課程の実施に伴う指導上の諸問題を研究協議し、解明を図り、教員の指導力向上を目指しています。9日には県東部、10日には県西部で14の教科・領域で実施されました。

本校は、本年度及び来年度の2年間、保健領域の研究推進校の指定を受け、全校体制で研究に取り組んできました。そして、10日に研究初年度の研究集会を開催し、成果の一端を公開しました。

当日は、富山県西部教育事務所指導課長・松本美和先生、富山県小学校教育研究会副会長・井澤清徳先生、射水市教育センター・小林雅史先生の来賓3名をお迎えし、他校から14名の先生方の参加がありました。

13時30分から公開授業が始まりました。新型コロナウイルス感染症対策として、1年2組は音楽室で、6年2組はコンピューター室で授業を行いました。

1年2組は「心も体も元気にきらきらパワーアップ!～おやつのとり方を考えようの巻～」の学習で、ねらいを「体によいおやつのとり方について理解し、自分の食生活について振り返り、よりよいおやつのとり方を考えることができる」としました。

上野先生は、おやつ栄養をエネルギーで表し、エネルギー量をブロックで可視化することで、子供たちに分かりやすく提示しました。また、金森栄養教諭はおやつを取りすぎるとバランスよく栄養がとれない理由等について専門性を生かし、1年生でも分かりやすく話されました。低学年からできる自己管理能力を育てる実践だったと思います。



写真上段：1年2組授業風景

写真中段：授業者上野先生、金森先生  
成瀬先生、城石先生

写真下段：6年2組授業風景

6年2組は「病気の予防～今を見つめて、自分の健康をプロデュース～」の学習で、ねらいを「病原体が原因となって起こる病気の予防には、病原体をなくすこと、病原体が体に入るのを防ぐこと、病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であることを理解し、自分の生活をよりよくしようと考えることができる」としました。

成瀬先生は、感染症の予防について、子供たちの経験から予防の仕方を想起するような発問をして、子供たちから活発な意見を引き出しました。城石養護教諭は、マスクの効果について子供たちがより理解できるように提示した映像に解説を加えました。また、抵抗力を高める方法についても詳しく説明しました。子供たちは自分の生活を振り返ることができ、翌日からの実践に即つながる授業となりました。

授業後は、下学年部会と上学年部会に分かれて協議会を行いました。協議会では、授業についてKJ法（付箋に意見を書いて話し合う方法）を取り入れ、討論しました。授業のみならず、教材の系統性等、参加者の先生方が活発に意見を交わしました。

15時40分からは、埼玉大学教育学部教授・戸部秀之先生を講師として迎え、オンライン配信による講演を行いました。「子供の動機づけ、行動変容、そして自己実現をめざす健康教育」という演題で、ご講演いただきました。講演では、自己実現のために、やる気を高めるアプローチとして、できそうだという「自己効力感」を高めることの大切さや、小さな成功体験を多く積み「頑張ればできそう」という気持ちになるように小さな追い風を作り出すことなどを教えていただきました。



部会協議



全体会・講演会

研究集会を参観された先生方からは、子供を生かした授業や本校の協力体制のよさなど、たくさんお褒めの言葉をいただきました。一方で新たな課題も見えてきました。研究集会での成果と課題を子供たちのための取組に生かし、2年度の発表に向けてより一層充実した研修を進めていきたいと思えます。

## 中学校区授業力向上研修会

保健

11月26日に、「射北中学校区授業力向上研修会」を行いました。研究授業として、東明小学校で体育科保健、射北中学校で英語、堀岡小学校で算数が行われました。そして、3校の全ての教員がそれぞれの学校に分かれて参加しました。

本校の体育科保健の授業は、4年2組の荒木弥先生が行いました。「体の成長とわたし」の学習で、生活経験から体の成長には、「運動」「食事」「休養・睡眠」が大切だということがよく理解できる授業になりました。



(校長 阿尾昌樹)